

## NHK 会長宛ての NHK 番組への要望文について(補足説明)

この度の東電福島第一原子力発電所事故により、長期に亘り避難を余儀なくされた皆様へ心よりお見舞いを申し上げます。

原子力発電に携わってきた者として、今回の事故を極めて遺憾に思い、重く受け止めております。この意を表すべく、日本原子力学会は「原子力安全調査専門委員会」を立ち上げ、原子力安全除染作業にお役に立つべくクリーンアップ分科会を設置し、何度も福島での現地で除染作業の指導や計画書作成のお手伝いなどをしており、私たちシニアもその一員として活動しています。また、原子力学会として原子力被災者の為の義捐金を募り、福島県にお届けしました。これからも福島県の被災者の方々には、シニアとして出来る限りの支援、協力を続けて参る所存であります。また、この経験を貴重な教訓として今後一層安全な原子力発電所としていくことを強く望み、その為の提言活動も続けてまいります。

日本原子力学会「原子力安全」調査専門委員会情報

<http://www.aesj.or.jp/information/fnpp201103/chousasenmoniinkai.html>

私達の団体の有志は、さる1月12日に、NHK番組「低レベル被ばく 揺らぐ国際基準」の問題点についてNHK会長へ宛てた要望文を提出し、このホームページにも掲示しました。私達は、避難先から帰還しようとしている方々、除染作業をしておられる方々、汚染地域の環境放射能や食品の放射能による低線量被ばくに不安を抱いておられる方々に、NHKを始めマスコミからはできるだけ客観的で公平な情報を提供していただくことによって、正しい知識を持って正しく判断していただきたいと切望し、今回、NHKに要望文を提出した次第です。

低線量被ばくの健康への影響は専門家の間でも多様な意見があります。細野環境大臣兼原発事故担当大臣のもとに、正にそのような観点から国民の皆様にも正しく理解していただくことを趣旨として、昨年11月から12月にかけて「低線量被ばくのリスク管理に関するワーキンググループ」が公開で開催されました。そこでは国内外の相反する意見を含め、幅広い意見を有する有識者が集まり7回にわたり議論され、その都度動画や資料が公開されています。そして12月22日にはそれらを纏めた報告書が提出され、その中には第2章「科学的知見と国際合意」として、現在の科学で分かっている健康影響、放射線による健康リスクの考え方、ICRPの参考レベル、そして放射線防護の実践が、また第3章「福島の実状に対する評価と今後の対応の方向性」として、福島の実状に関する評価と放射線防護のための方向性(子どもへの対策を優先する)が纏められています。その詳細は、『内閣府 内閣官房>原発事故の収束及び再発防止に向けて』として下記URLサイトに各回の有識者の説明の動画や資料等が掲載されています。

この報告書は現時点で最も客観的で正確でかつ公平な情報であると思いますので、ぜひお読み頂きたいと思っております。

低線量被ばくのリスク管理に関するワーキンググループ報告書

<http://www.cas.go.jp/jp/genpatsujiko/info/twg/111222a.pdf>

低線量被ばくのリスク管理に関するワーキンググループURLサイト

[http://www.cas.go.jp/jp/genpatsujiko/info/news\\_111110.html](http://www.cas.go.jp/jp/genpatsujiko/info/news_111110.html)